

會本乃花



繪本詞乃花序

浮世繪ハ菱川と祖と一夷經を

咄月を師とて此うらのあはれ

を形どくゆや姿のおうくたは

はるたによはるはあはれちか

しやひよへきおもくようつのを

まね古と師と一ゆれとされ

とくき世繪のうらまへり

ありより出は氷二時れつりて来こ
 たりれは人ひかりよれ世よに控あひ多
 りきく一えりては少々のすけ忠ちハ
 堪能えん主代ちう主之ち亭ていがくもい
 眼鏡がん乃のきくみみしてい鏡かハ時とき月げつ
 下よ出は給ハ一川せんう上じやうに
 出い〜一いちこきこハ乃の詞ことば
 乃の形かたち四よ才さいよつとくみほハ

酒のたき上

ささゆ

天明とまこしゆの七と柴

むつきみちし

宿屋飯盛之



酔い
 くら
 乃
 花の
 下
 尻焼
 猿人



ほ
 ほ
 ら
 系
 母

酒のちの上ノ二

宿屋飯盛

浪の上

かゝる

櫓

月のおの

雪あ

こほ

河れ

アヤ

ゴ



そら

花火

櫓の月

一おすまの

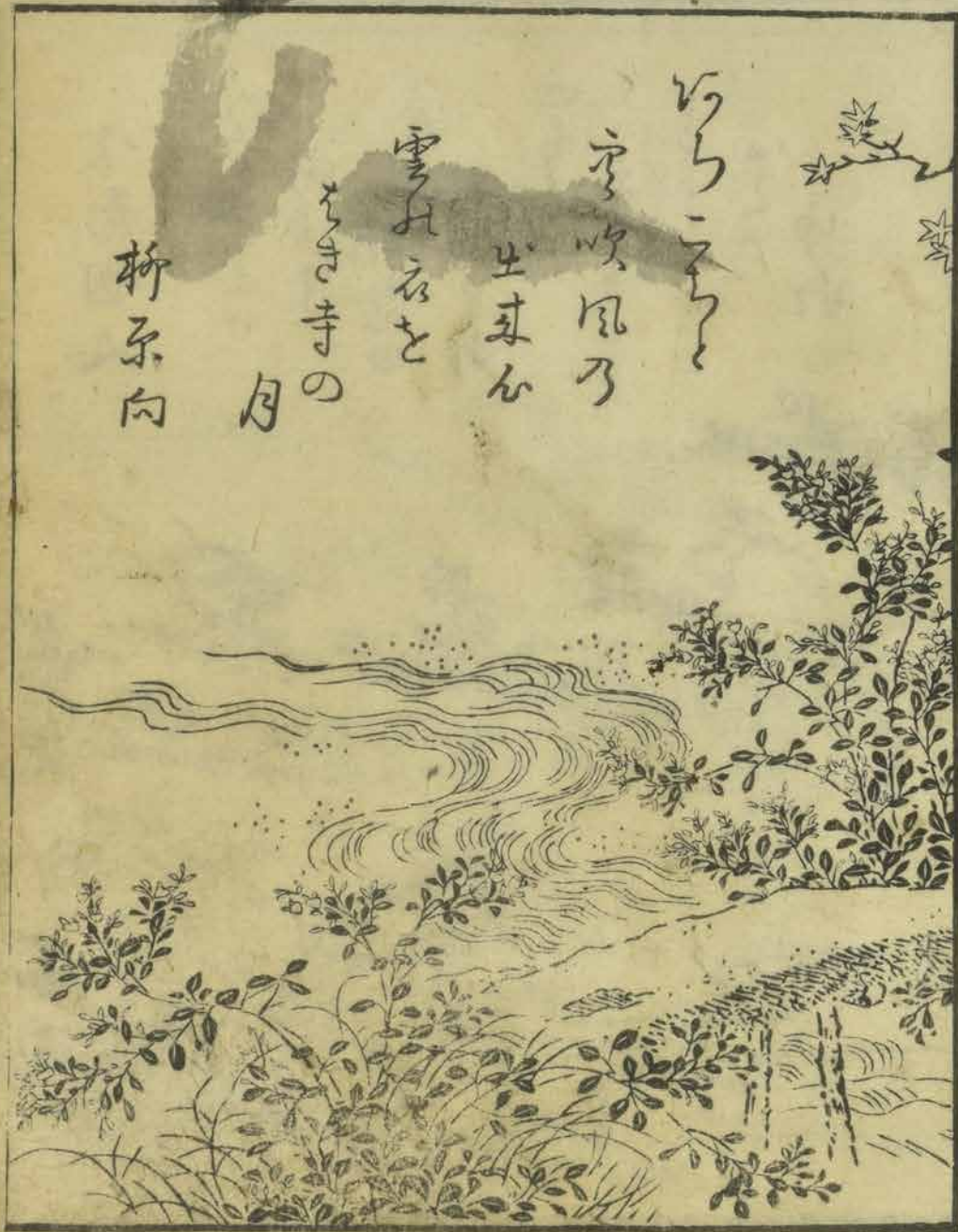
みぎ

つと光





月
 の
 上
 四



夕
 吹
 風
 乃

生
 其
 心

雲
 其
 衣
 を

夕
 吹
 風
 乃

夕
 吹
 風
 乃

月

折
 系
 向

吹壳咽人

くさくさ

あ〜

お龍の

梅の

かろ〜

え〜

き〜

き〜

ゆれ



河のくさ上ノ五

芦を

田舎丸

あま〜

み〜

遠く

唐まで

も

その名

さら枝の

梅乃

精井





千枝鼻元

うきも

さくら

くわんも

さくら

さくら

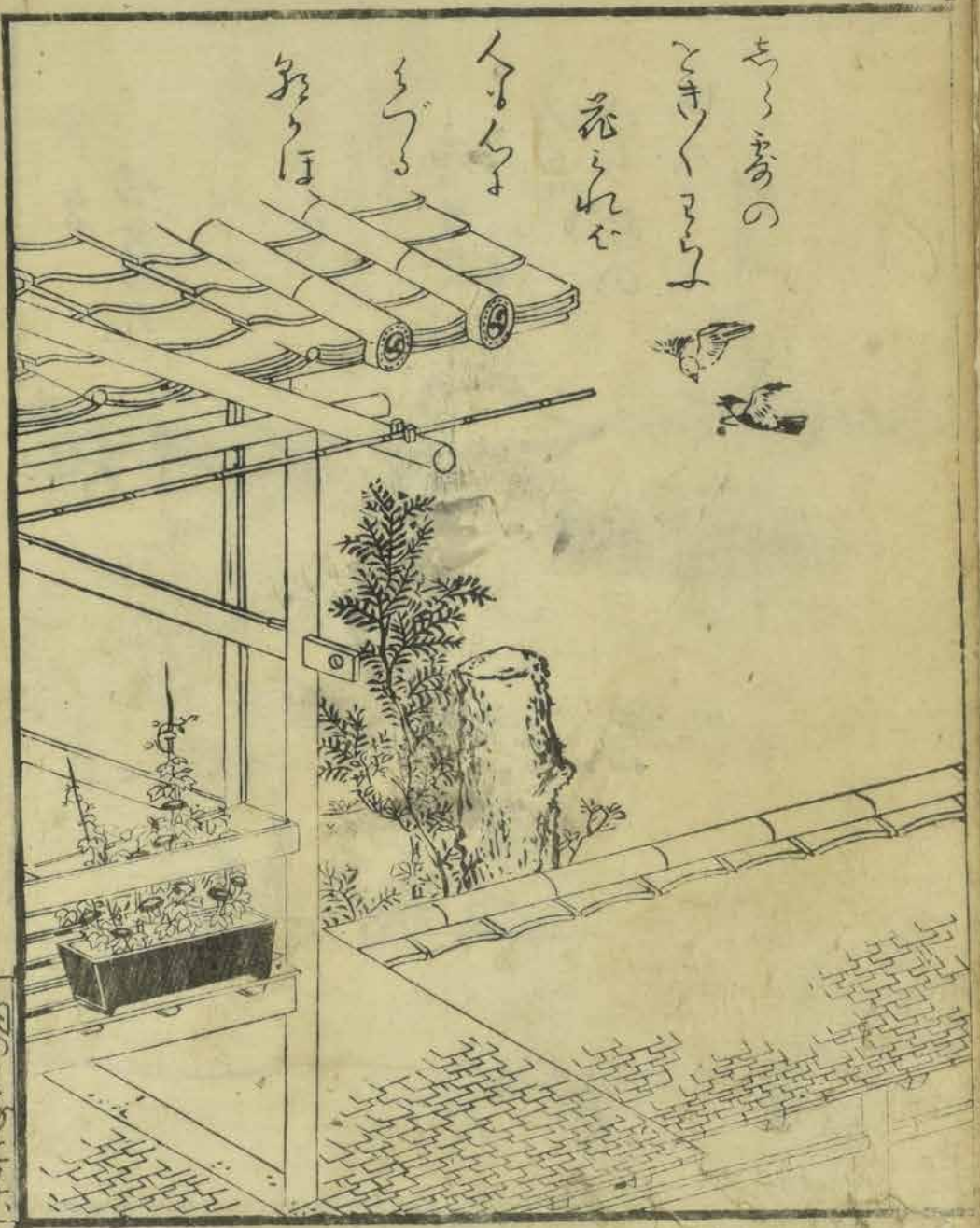
さくら

さくら

さくら

さくら

さくら



あゝあゝの

ときくさくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

條ノ橋九

通リ白

少の家

やう

夏棚

まろ

とろろ

やろり

あま



去河掻安

弁當七

あくる

あつら

夏棚

とろろ

まろ

やろり

下ろ



在清月主律紋

在清月主律紋

心三毛
おん



浅子市人

ききりきり

鏡が池の

厚氷

うき

うき

うき

あま

